

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホームわがの里		
所在地	岩手県北上市下江釣子11地割2番地17		
自己評価作成日	平成21年11月2日	評価結果市町村受理日	平成22年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390600062&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390600062&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階		
訪問調査日	平成21年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境を作り、楽しくいつも笑顔で暮らせる日々を目指して支援しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設以来、約半年、新しいグループホームである。その中で職員は意欲的で、管理者を中心に一体となって前向きに取り組んでいる。このことは、利用者の家族からの信頼を得ることもつながっている。介護計画についても、ケース記録を克明にする中で、モニタリングを大事にし、全員が参加し作成や見直しをする。チームでつくる計画が実践されている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を構築する所までは出来ていないが、楽しく笑って生活出来るようにする為に日々支援しています。	笑顔で家庭的な雰囲気での安心した生活のできるグループホームを目ざして、みんなで同じ方向に進んでいるが、理念として明確にされたものになっていない。	理念はグループホームの目ざす原点であり、職員全員でしっかり共有しなければならない。日々の職員の思いやケアの方向性など共通意識の中で進めていくことが大切であるということ、安心して、地域の一員としての生活継続を大切にしていける等を踏まえ、はっきりした理念の確立に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加は、出来るだけ参加してきた。 鬼の館の鬼剣舞の鑑賞	散歩中に近隣の方から声をかけていただくことはあるが、近隣との付き合いはない。移動図書館などの活用、法人としては自治会へ加入しているが、グループホームとしては加入していないので、今後の課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在実践に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで2回開催し、施設での生活や様子等の報告をしながら意見を伺っている。	ホーム開設以来2回の会議をもっているが、ホームでの生活の様子や認知症への理解と地域の中での認知症の例などについて話をする事に努めており、本来的な会議のあり方に向け今後取り組みたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、地域包括支援センターの職員からの意見を伺っている。	運営推進会議のメンバーとして参加している地域包括支援センターの職員が北上市職員であり、この職員との連携はあるが、運営推進会議以外では法人としては関わりがあるものの、ホーム独自には直接的なつながりを持ってはいない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けた職員がいるが、職員全体の研修は行っていない。 その日の帰宅願望の状態により、やむを得ず施錠する事がある。	現在、帰宅願望等で無断外出傾向の利用者が数人おり、対象利用者の家族には説明し、やむを得ず施錠することもある。ただし、全利用者の家族には説明と了解は得ていない。	一人ひとりの利用者の尊厳を重要視し、身体拘束しないということで、危険回避の為にやむを得ない状況もあるかと思われるが、施錠しなくてもよいケアのあり方に全職員で取り組むことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を受けた職員がいるが、職員全体の研修は行っていない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員がいるが、職員全体の研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明は行っており、契約等同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外では、特に機会は設けていない。	ほとんどの利用者の家族は来所なさるので、その機会にいろいろな意見を伺っている。その意見は可能な限り反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議時に意見は聞いている。	毎月(第3水曜日)の全員参加によるグループホーム会議で意見を出し合っている。利用者の方での気付き、行事・食事・ケアプラン・仕事の仕方などいろいろと意見は出る方で、それらを反映する様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・岩手県等のグループホーム協会に加入したので、今後研修には参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前面接での聞き取りを、職員で共有し入所後の支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接での聞き取りをしている。また、入所後の面会時に、家族より聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は、環境の変化の対応に追われたが、必要な支援について話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に要望などを伺いながら、対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、利用者の様子をみていただきながら、利用者の希望を話し、家族と相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力している。	利用者の中には、家族に支援をいただき、前の自宅隣家の友人へお茶飲みに出かけたり、別の利用者は、利用していた小規模多機能施設のケアマネが時々訪れたりしているなどの例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の認知度の違いにより、困難な時もあるが、努力している。利用者同士の相性や友人関係等の形が見えてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当ケアマネから様子を聞いたり、利用施設を伺い、在宅の様子を見ました。今後については、相談していくことでケアマネと協議しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは伺っています。出来ることは実現に向けて努力しています。	「利用者の中には、夜になると不穏になって徘徊などがおこる。そんな時こそ職員は、こころの余裕を持って、相手の言動からその思いや意向を把握する様にするのが大事だ」との一職員の言葉に象徴されるように、利用者の思いを聞き取りしたり、本人の様子からも思いの発見に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接調書や、入所後の本人・家族からの聞き取りなどで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートに記入しながら、把握に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議で、状態や会話の内容を担当や他の職員から聞き取りしながら、計画している。家族からは、面会時に聞き取りしている。	利用者一人ひとりの思いを把握する中で全職員が計画づくりに参加すると共に、その実践課程を克明にケース記録にとってそれを踏まえながら、その時々を利用者の状況を考慮しつつ3カ月ごと計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートをもとに個別のケースに記録している。情報の共有には努力している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に出てくるニーズに対して、対応を検討し行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者全員の把握は努力しているが、利用者を地域で支えた方への情報提供をしながら、入所後の生活の安定が図れるように協力を頂いている方もいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。	かかりつけ医は、利用者本人と家族が決められており、通院も家族による介助を原則としている。各かかりつけ医とホームとの情報提供は互いにきっちり行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の関わりの中での訪問看護利用者はいませんが、入所後利用までの経緯はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要とされた場合に施設での様子を伝えていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		現時点では、重度化対応についての話し合いはできていない。ゆっくり看取る部屋の問題、一人体制の夜勤の問題など難題がある様に思っている。	利用者、家族とも安心してホームでの生活ができることを望んでいると思われるので、利用開始時からホームの方針をきちんと説明すると共に職員もその方針を共有できることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練等は行っていないが、緊急時の対応についての手順等は都度指示にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について、火災設備等の訓練は行った。地域の協力は、社会福祉法人和江会・特養の地域防火協力隊の協力を得ることとなっている。	法人としては地域との協力の中で防災に取り組んでおり、近隣で組織して頂いている“防火協力隊”からの協力を得られる。ホーム独自の取り組みは消火訓練程度である。連絡体制は出来ており、非常時の器具等の説明も受けている。	災害対策は人命にかかわる最重要課題の一つである。早急にホームの災害対策をたて、地域の協力も得て訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力している。	個人情報記録は、スタッフルームのロッカーに保管している。プライバシー保護マニュアルを参考に言葉使いや入浴時、トイレ使用時など羞恥心に配慮することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等のスケジュールに沿って生活しているが、希望時はそのとおりにこなしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	食材の買い出しは、最初は利用者が買い物をしていましたが、10月より宅配依頼している。献立は職員が立て、特養の栄養士に見てもらう。利用者の手伝いは簡単なことはやっているが毎日ではない。行事食などの特別な内容の食事には法人の調理室からの協力も得て、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を特養管理栄養士に確認し、摂取量等は記録している。食形態も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやいれば洗浄を行い、夜間はいればをはずしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。排泄については記録している。	排泄記録表によって、随時声かけをしている。また時間を決めての対応は、食事後に支援する様に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の時間帯である。	週に月、水、金と火、木、土の2グループとし、午後2時からの入浴となっているが、弾力的に運用している。しかし、夜の入浴希望には対応しかねている。バイタルチェックは午後1時30分に実施し、入浴可否判断は、管理者が行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については、入所時に職員に説明し、変更時はその都度説明している。また、薬の用法や用量の書き物は、個人のケースに綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅での様子などの聞き取りをもとに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどを計画し、出かけている。家族も協力的である。	散歩は週2~3回、同法人の特養や保育園方面に出かける。また、家族が利用者を散歩に連れて行くこともある。ドライブは、特養やホームの車を利用し、いろいろな所に出かける。ただし、利用者の体調を考慮しながら行っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用について利用者からの希望はほとんど無いが、希望時は一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などの空間を利用し、塗り絵などを張ったりと工夫している。	全体的に清潔であり、天窓からの採光も適度で、明るく穏やかな雰囲気が感じられる。フロアは食堂と居間が一体的なつくりであるが、ソファの配置などで分かれた使い方ができるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツでくつろぐ事が多く利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものは持ってきている。	共用部分と共に各居室も床暖房になっており、特に寒い季節でも居室にコタツ等が無くても暖かく過ごせる。なじみの物を持ち込んで利用者が安らぐ居室づくりをすすめている。しかし、まだ全ての利用者及び家族に十分に浸透する状態にない。今後、より自分の部屋のような雰囲気作りがなされていくことと思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努力している。		